

やさしい病害虫講座 19

「野菜や草木が枯れるのは？」

木村 裕

今年第5地区で栽培しているソバの一部がパッチ状に枯れていることはソバクラブのメンバーはすでにご存知のことと思いますが、なぜ枯れたのでしょうか？

原因として、種の播きかたが悪かった、水が溜まった、鳥が種をつまみ食いをした、昨年と同じ場所で栽培した、などの答えが返ってくることでしょう。

現場を見ますと、種はちゃんと生えていますので、種が悪いとか、播きかたが悪かったとはいえません。よく見ると株の根元が腐っていて簡単に引き抜きました。

本当の原因は微生物（病原菌）が茎の地際に近い部分に入り込み、茎を腐らしたのが原因です。私たちと同じようにソバも病気になります。

最初は1～数株の発生だったと思います。普段の年ならその段階で止まり被害も分からずにすんだことでしょう。今年は幸か不幸か雨天の日が多かったことが病原菌の活躍を後押し、一気に周りの株に広がっていったと想定されます。これは疫病という病気で雨が多いと発生が多くなります。

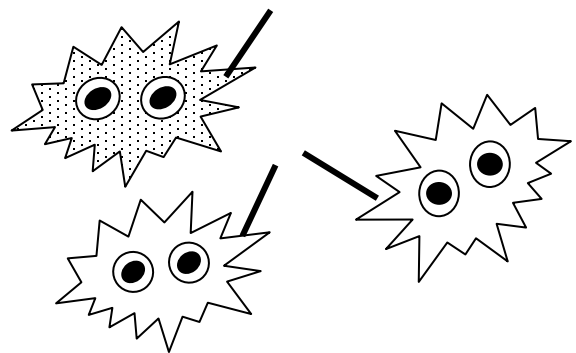
この病気はトマト、ピーマン、タバコなどにもよく発生します。発生してからの対策は、被害株を抜き取って圃場の外に持ち出して処分する以外にはないでしょう。また花の日日草（ピンカ）ではごく普通に発生します。茎の中ほどの部分が黒くなって腐り、そこから先の部分が萎れて枯れます。被害部の少し下の部分から切り取って処分します。プランタ栽培なら雨が直接当たらない場所に移動させるのもよい予防法です。

キュウリの葉がある日突然萎れて枯れるのは蔓割れ病という病気で茎の地際部分がだめになっています。直ぐに引き抜いて隣の株への伝染源にならないようにしましょう。予防的には継ぎ木苗を使うのがベターですが、苗のお値段もそれなりに高くなります。

トマト、ナスでは葉がじわじわ萎れて枯れる青枯れ病が恐ろしい病気です。この菌は作物が枯れても土の中に居残り、翌年までじっと待っていますので困り者です。被害株は直ぐに抜き取って処分します。抜き取った株を畑の隅に放置される方がおられますが、これは病原菌に「また戻って来いよ」と言っているようなもので注意しましょう。その畑では翌年も発生する確率が高いので、これらの野菜栽培はしない方がよいでしょう。

夏場に草花が突然萎れて枯れ、株元に白いカビがいっぱい付着しているのは菌核病です。カビの他に黄褐色～赤褐色の丸い虫の糞のような物もいっぱい見つかります。気温と湿度が高く、風通しが悪いと発生しやすいです。被害株とともに周りの土も掘り取って処分してください。虫の糞のような物も全て。

野菜や花の種をまいて、本葉が出始めた頃に根元からばたばた倒れるのは苗立ち枯れ病です。土の中に菌が潜んでいて、柔らかくて美味しそうな苗をみると大喜びで食らいつくからです。予防的には苗床では古い土を使わず新しい土を使います。発生してからは、オーソサイド水和剤を水に溶かして株元の土に水をやるような感じで播くと新たな発生は止まります。ただし菌の種類によっては効かないものもあります。



株を枯らす病原菌はいつも土の中に住んでいて、好物の野菜が植えられるのを待っています。大歓迎です。予防対策としてはならやまで実行しているような堆肥の投入です。この堆肥の中にはいろいろな微生物が住み着いており、お互いに食い合いをしていますので、悪玉菌を食べてくれることが期待されます。